参考資料４

バッジ等の取組について

生活

メールはseikatsu@asahi.comへ

つらさ さりげなくわかって 持ちたいのは優しい気持ち

バッジ広がる BABY in ME

目立たないけどつらい妊娠初期。周囲に知ってもらおうと、1人の女性がデザインしたマーク「BABY・in・ME」が、共感する人たちの手で広がっている。北海道釧路市ではステッカーをつけたタクシーが走り、東京都内のブライダルプラザの窓口にもバッジが置かれるようになった。誕生から5年、バッジは計2万個になった。

マークは、横浜市のフリーライター村松純子さん(41)が、「具合が悪くても、おなかが大きくないので、優先席に座ると白い目で見られてしまう」という友人の声を聞いてデザインした。99年にホームページを開き、ステッカーやバッジの頒布を始めた。

「広めたかったのはバッジではなく、街角で優しい気持ちを思い出せたらいいね、という意識」と村松さん。

女性たちの感謝の声に加え、予想以上に多かったのは、「配りたい」という人たちからのアクセスだ。釧路市のNPO「くしろ演劇みたい会」は「バリアフリーの街づくりに役立てたい」(柴田千鶴事務局長)と考えた。03年秋からステッカーやバッジなどを購入し、地元のタクシー600台に渡ってもらい、市を通じて母子手帳と一緒に妊婦に配っている。

札幌市の公社に勤める伊藤好修さん(31)は、「ポスターを張りたい」と申し出て、1月にバスターミナルや市の施設に20枚を張った。2年前、妻がバッジを利用した。「次世代のために自分でできることをしたくなった」という。

東京都豊島区の都民共済プラザイタルプラザでは、結婚式の打ち合わせ窓口にバッジを置き始めた。衣装合わせなどで、遠慮せず「妊娠中」を伝えてほしい、という配慮からだ。

村松さんのホームページはhttp://www.baby-in-me.com

㊤マタニティーバッジのデザイン㊦「黙って見守るだけでも大切なこと」と村松純子さん＝東京都内で

(平成17年3月11日朝日新聞)

日時計

しんどい思いに気付いて

▽…体調はしんどいけれど見た目にわかりにくく、なかなか周囲に気付いてもらえない。そんな妊娠初期の「プレママ」たちを応援しようと東京都武蔵野市は、バッグなどに付けるストラップを配り始めた。

▽…妊婦をかたどったイラストに「I am Mom」の文字をあしらい、さりげなく妊娠を伝え、乗り物の優先席に座りやすくなる効果などを期待する。マークは非営利組織(NPO)チャイルド&ファミリー・フレンドリー・コンソーシアムが提案。ベネッセコーポレーションもムックの付録のストラップで同じマークを採用している。

▽…二〇〇三年から独自のマークで同様の試みをしている京都市では、「目立つように身に付ける人はまだ少ないが、いざというときのお守りと思って持ち歩く人がいるようだ」。妊娠中に限らず、体調が悪いときは誰でもいたわってほしいもの。だが、マークでアピールしないと、配慮できない風潮の裏返しだとしたら、少し悲しい。(浩)

(平成17年5月19日日本経済新聞)

チャイルド&ファミリー・フレンドリー・コンソーシアムの例

KYOTO CITY
おなかに赤ちゃんがいます

京都市の例